

平成 24 年度 第 1 回伊勢市環境審議会 議事録

日 時：平成 24 年 4 月 26 日（木）19 時～20 時 30 分

場 所：伊勢市役所東庁舎 4F 4－2 会議室

参 加 者：朴会長 深草副会長 中村委員、船谷委員、川端委員、竜田委員、玉串委員、
坂内委員、金田委員、堀井委員、扇本委員、大西委員、松月委員、岡委員、
事務局（中井宏明部長、坂本進課長、高橋） 以上 17 名
※白木信行部長・松村綾子は他部署へ異動、山村勇参事退職。

審議事項

「伊勢市地球温暖化防止実行計画（区画施策編）」について

朴：今回の会議では(2)を中心に話し合い、市がどのようにリーダーシップを取っていけばよいのか今後の案を構想したい。そのためにみなさんの意見を頂きたい。

(1) 前回指摘事項に関する修正箇所について（高橋）

資料の差し替え【資料 1】→【資料 1－1】 以上 1 枚

追加資料【資料 5－1】、三重県における 2020 年度の温室効果ガス排出量（三重県地球温暖化対策実行計画 36 ページ）

伊勢市製造品出荷額（合計） 以上 3 枚

修正箇所説明【資料 1－1 参照】

(B 列) 排出量現状趨勢 産業部門→639 廃棄物部門→17 総排出量合計→1259

(F 列) 国・県削減量 民生業務部門→47 総排出量合計→277 以上 5 箇所

←意見なし

(2) 目標年度における将来推計（BaU）について（高橋）

追加資料の伊勢市製造品出荷額（合計）を参照。

前回、ご指摘頂いた製造業部門の将来予測について三重県の方と相談し、資料のように過去 10 年間の出荷額合計推移を調べ、追加した。

この表から年間増加率を計算し、2020 年度の出荷額を 367,295 百万円と算出した。平成 19 年度、20 年度の製造業における原単位（0.0017 千 t CO₂/百万円）をかけると、625 千 t

CO₂となり、非製造業部門の 13.5 千 t CO₂を合計し、約 639 千 t CO₂となる。【資料 1 - 1 (B)列 産業部門の値】

これらを元にその他の 3 ガスについても半導体製造業、電子部品製造業、半導体製造関連の製造出荷額が前回示した金額より下回るため、反映させて減少となる。

以上の結果から 2007 年度と比較すると 2020 年度の排出量は約 2%の増加となる。

また、【資料 2、3、4、5 - 1】の削減量を合わせると、2020 年度における、伊勢市の温室効果ガス排出量は 2007 年度と比較すると 30%の削減が見込まれる。

岡：森林の市内削減量が 0 になっているが、それでよいのか。

高橋：【資料 5 - 1】の（注 1）にあるように、大幅に数値が変更される可能性はある。現在は京都議定書に基づいて算出している。これに基づくと、森林吸収量の確保としては森林の間伐、植樹の 2 種類の方法がある。三重県は 1990~2020 で県内全ての森林の間伐する計画になっているので 0 とした。

岡：神宮林という点において、伊勢市は他の市町とは違う。その利用はないのか。

高橋：神宮林が行った間伐も三重県の吸収量としてカウントがされている。

金田：神宮林も行っている適正な間伐を県もやっていくという前提で行っていると思うので、このままの算出でよいのではないか。

朴：1990 年以前の植林はカウントされていない。しかし、神宮林のようにしっかり手入れされている所ではカウントされてもいいのではないかというのが現状である。よって、吸収量を 0 としておき、今後増加の可能性も期待しておく。

←承認

中村：再生エネルギーの買取価格が上昇しているはずだが、その価格が的確に反映しているのか。もう少しプラスでもいいのではないか。

坂本：伊勢市内でもメガソーラーが設置されている状況では、もっと反映されるのではという質問か。

中村：削減率 30%に合わせているが、まだプラスにはならないのか。

高橋：個人的には、新聞報道等による情報によると、家庭用太陽光発電に関しては、現状の余剰電力買取制度が維持され、普及に関してはこのまま、一方で、全量買取制度が対象となる太陽光発電を設置するような製造業、事業所に関しては今の国の補助金がない状況よりは、普及に関してはプラス要素になるのではないかと考えている。

坂本：【資料 5 - 1】を参照。産業部門では、太陽光をつけた場合を試算している。マニュアルに基づいて計算している。どのような状況で計算されているのか再検討する。

←承認

金 田：30%削減するという努力目標が掲げられているが、表を見る限り数字を逆算しているように感じる。説得力を出すために、小数第一位を四捨五入するべきではないか。

坂 本：それぞれの数字においては H19、20 年度に伊勢市が行った新エネルギービジョンで行ったアンケート調査の結果に基づいて計算されている。その他にも中小企業対象に行ったものもある。よって小数点以下の数字にはっきりとした根拠がある。

金 田：それなら、なおさら四捨五入するべきではないか。

事務局：内容は詳細を載せていくが、資料の数字は四捨五入した数にしていきたいと思う。

朴：先ほどの指摘は重要。県においても、数字が小さい場合は内容のみを載せている。算出根拠を参考資料として後ろに掲載すればよい。作成には工夫が必要。

←承認

朴：産業部門の将来予想についてはどのように考えているのか。民生部門では 50%以上の削減をしているが、産業は甘いのではと思う人もいるのではないか。説得するためには、伊勢市製造品出荷額からどのように算出したのかなどの根拠が必要。代替フロンなどは県全体では 16%になっているのに対し、伊勢市はマイナス 4%である。企業の種別から考えると特殊なのかもしれない。そう考えると整合性は取れている気がする。実際、今後 10 年間の根拠が知りたい。

大 西：増加率をどういう風に求めたか。

高 橋：伊勢市製造品出荷額を参照。《(34900「H20」－334487「H11」)÷10年》の解を年間増加率とし、H32 まで 1 次関数として求めた。

坂 内：10 年前と現在の延長線を引いたということか。

朴：一般的な年間増加率の計算はこのようなものなのか。

高 橋：数パターンの計算方法を行い県とも相談した結果、近似関数を用いた計算では伊勢市の出荷額としては考えられないような結果になったため、この方法を取り入れた。

中 村：政治家の討論で行うような誰かの判断で出した計算方法という意味と同じではないのか。

高 橋：伊勢市としての産業に関する将来予測がないので、難しい。

坂 本：中村委員から以前質問があったので、調査したが資料などもなかった。よって県に相談し、このような結果となった。

朴：折れ線グラフより、棒グラフの方がよいのではないか。変動の大きいものより緩やかな流れに見えるグラフの方がよい。数値の変動があったとしても県のトレンドから考えても大きなものではないと思うので、将来予測計算手法が正しいのか確認をもう一度行ってもらいたい。

←承認

金 田：伊勢市の対策削減量は国・県の施策とダブルカウントにはなっていないのか。太陽光発電・クリーン自動車などもしっかり仕分けされているのか。

高 橋：【資料 2】温暖化対策として国・県が様々な方法で実施している。家庭用太陽光パネルを例にとると国が 10%、県はそれに上乗せして 5%、伊勢市は 20%目指すというような形を取っている。よって実質は市の取組みによる削減は 5%の部分だけである。

金 田：クリーン自動車もそのような意味なのか。

高 橋：クリーン自動車は県の実施率は 36%となっている。市のアンケート結果によると約 6 割の人がクリーン自動車に変えたいと思っている結果が出ているためその差を掲載。

金 田：ダブルカウントではなく、伊勢市が上乗せして計上していることが理解できた。

大 西：国と県以外の削減量を伊勢市が独自に上乗せしている。県の施策の削減分よりもさらにプラスした挑戦的な数値を出してきている。努力していることが伝わる。しっかり今後も説明ができるようにして欲しい。

朴 　：大西委員と金田委員の説明がわかりやすく納得できた。あとは、しっかり実施できるように。伊勢市ならではの施策だというものをお願いしたい。数値を合わせてきているのでは、という意見もあったが、熟考されたものであると理解できた。次回はもう少し内容を詰めた説明を準備しておくとう素晴らしいものになるのではないか。

堀 井：出荷額が年間 500 億もの増減がおこるといことは何かの原因があるので、その究明をしておく方が今後のためによいのではないか。H17 からの増加はソーラーが関係している。

坂 内：出荷額が下がっている部分どこかの工場移転をしたなどではないのか。そういった理由も掲載しておくとうい。

←承認

(3) 市の取組み（案）について（高橋）

【資料 4】【資料 1-1】以前作成した骨子案の中に、実現への取組みがある。どの分野の対策を重点的に行うのか。また、伊勢市が観光地である特色を活かしたい。運輸部門に関しては、未定だが県と一緒に実施する「地域と共に創る電気自動車等を活用した低炭素社会モデル事業」を考えている。民生家庭、業務であれば、エネルギーの地産地消で審議していただいた取組みを積極的にやっていきたいと考えている。

大 西：骨子に基づいて全体取りまとめていくわけで、市の率先事項第 5 章で事務事業分は今回の資料のどこを指しているのか。

高 橋：今回の資料とは別。骨子案における「市の率先事項第 5 章」の内容については市役所が新エネ、省エネ・節電に取り組む内容となる。また、新たに建物を建設した場合などにおいても新エネ、省エネタイプのものにして行くという内容。

←承認

坂 内：市民にとって、見づらい資料ではないか。

朴：取組みについてはよい。あとは、どの様にわかりやすく盛り込んでいくか。観光客数が人口の 10 倍以上である場所は、なかなかない。規模的に鎌倉を参考に見てはどうか。ヒアリングなどを実施して欲しい。それを参考に伊勢市の特色を出した新たな施策を。伊勢市は運輸部門、車が多い。観光客の車利用なども活かして欲しい。

←承認

朴：今後の大まかな取組み予定はどうなっているのか。

坂 本：5 月 1 回、6 月 1 回集まって頂きたい。内部協議を報告、議会の報告、パブリックコメント作成（1 ヶ月）、議会の報告の予定。夏場の前に計画ができればよいが、先に取りまとめていただいた、エネルギーの地産地消、省エネや節電にも力を入れていきたい。完成は 9 月頃予定。

朴：パブリックコメント作成後、審議会を経て議会にあげるのが 9 月となるので、今回のような審議ができるのはあと 1、2 回となる。今回は BaU の 30%削減という見通しが立てられた。具体的な案の審議は 5 月末となる。

岡：新エネルギーの地産地消、地球温暖化など環境問題について進めているが、絶滅危惧種など環境に関する対策はしないのか。

坂 本：今回は地球温暖化防止実行計画なので、その件に関しては環境基本計画の進捗管理でお願いしたい。自然環境のことはその会議でお願いしたい。

←承認

朴：次回の会議もまたよろしくお願ひしたい。

←20 時 30 分終了